

体験学習カード

作成日 2019/ 7/ 1.

<p>体験内容</p>	<p>「どんなふうに見えるかな？」</p> <p>視覚障がい、目をつむることで容易に体験できる障がいと思われがちですが、弱視や視野狭窄の方々の見え方は、人によって大きく違いがあります。「どのように見えているのか」知ることによって、サポートの仕方や障害物の除去に役立てて欲しいと思います。</p>
<p>対象年齢</p>	<p>6歳から</p>
<p>参加条件</p>	<p>特にありません</p>
<p>定員</p>	<p>特にありませんが、体験キットの数から1クラス単位の開催となります。</p>
<p>所要時間</p>	<p>時間の制限に合わせて、体験プログラムの内容を変更することができます。</p>
<p>場所 (スペース、設備等)</p>	<p>教室</p>
<p>持ち込み備品</p>	<p>「ロービジョン体験キット」20セット 東京大学先端科学技術センター様より貸与 指導員の派遣も可能</p>
<p>スタッフ数</p>	<p>指導員 1名 サポートスタッフ 体験者10名につき1名</p>
<p>依頼者が準備する 備品</p>	<p>特にありません</p>
<p>開催時期</p>	<p>「ロービジョン体験キット」の貸し出しが他と重複する場合、ご希望開催時期の変更をお願いすることがあります。</p>
<p>問合せ先 ※</p>	<p>★ 狛江市市民活動支援センター(こまえくぼ1234) ☎03-5761-5556 FAX 03-5761-5033 Email:info@vc.komae.org ★ 狛江視覚障害者の会 事務局 宇多川清治 ☎090-9144-9384 Email:se-udagawa@tuba.ocn.ne.jp</p>
<p>備考 (費用、駐車場、 控室等)</p>	



「ちゃれんじクラブ」が目指すこと

障がい者の住みやすい社会は、全ての人にとっても住みやすい社会であることを理解し、全ての人と共に暮らせる社会を目指します

遊び

- ①遊びのルールとして、障がい者の置かれた制限(ハンディ)を子どもに体験してもらいます。
- ②楽しく遊びながら、モチベーションを維持し能動的に課題へ取り組むことができます。
- ③参加しやすく間口を拡げ、これまで関心の薄かった子ども達の参加を促します。

体験

- ①知識ではなく、心と身体で体験するを基本に、障がいについて考える出発点にします。
- ②正しい答えを提供するのではなく、幾つかの選択肢から、その子なりの答えを出せる余地を残します。
- ③与えられた制限(ハンディ)を乗り越え、課題をクリアすることで、自分が壁に直面した時、それに立ち向う勇氣を持って欲しい。

気づき

何に気づいて欲しいの... ?

障がい者の暮らし、障がい者の世界が特別なものでなく、すぐその隣人の暮らしと、何ら変わらないと言うことを感じ気付いてくれることを目指します。